

世帯と人口

(11月1日現在)

世帯 42,145 (+19)
 人口 116,605人 (+35)
 男 59,892人 (+39)
 女 56,713人 (-4)

えびな 広報

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地

☎ (0462) 31・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。



▲弓道・下釜選手、山岳・沼田選手、ソフトボール・鈴木捕手(写真左)、中村外野手(同右)

つわものどもが ゆめの未来

少年女子ソフトボール
中村翠外野手
(社家在住)

少年男子弓道
下釜耕太選手
(柏ヶ谷在住)

少年男子弓道競技
川井 静雄
成年男子弓道競技
加藤 万隆
博多屋香織
少年女子ソフトテニス競技
鈴木 登
成年男子バドミントン競技
鈴木 山香
少年女子ソフトボール競技
中村 真帆
少年女子弓道競技
下釜 研太
大塚真由美
成年女子弓道競技
野島 克己
沼山 美香
成年女子山岳競技
右井町南子
少年女子ライフ射撃競技
櫻井 文子
少年女子弓道競技

市内出場選手の成績(敬称略)

姓 名	種 目	成 績
川井 静雄	成年男子弓道競技	優勝
加藤 万隆	成年男子弓道競技	優勝
博多屋香織	少年女子ソフトテニス競技	第4位
鈴木 登	成年男子バドミントン競技	準優勝
鈴木 山香	少年女子ソフトボール競技	優勝
中村 真帆	少年女子ソフトボール競技	優勝
下釜 研太	少年男子弓道競技	準優勝
大塚真由美	成年女子弓道競技	優勝
野島 克己	少年男子弓道競技	準優勝
沼山 美香	成年女子山岳競技	準優勝
右井町南子	少年女子ライフ射撃競技	ビームライフル射撃競技
櫻井 文子	少年女子弓道競技	準々決勝退出

人は「ゆめ」を見るだけでは生きられません。けれども「ゆめ」がなければ、未来(さき)へと進んではいけないでしょ。出場し出場したすべての選手たちの心に、そのことを深く刻み込んだ大会でした。

「伸び」続けたい
少年男子弓道
下釜耕太選手
(柏ヶ谷在住)

国体は初参加の下釜さん。「普段練習している道場が試合会場なので、違和感はありませんでした。でも、いつも試合より観客の数が多いので、驚きました。試合結果については「違的是準優勝でした」と表現します。事などこれまでの外してしまったのが心残り」。「もう生活リズムの一部だから今後も弓道を続けるということ」。「矢をつながると、左手で弓を前方に押し、右手で弦を後方に引くことを『両方に伸びる』と表現します。よく『伸び』れば命中精度が上がりますね」と、さわやかな笑顔で話してくれました。

普通に山登りを
少年女子岳沼田美香選手
(上今泉在住)

「地元開催なので、声援がすごく会場も明るく感じられました。大会のおかげで集中力がつきましたね」と沼田さん。「準優勝できましたが、総走の成績に悔いが残りました。私にとって山岳競技とは「未知なる限界への挑戦」です。次の熊本大会ではがんばりたい」と番しあることは、「応援してくれたお友達と、手紙や電話で話がしたい。あと、競技ではなく普通に歩いて山登りがしたいですね」と、さわやかな笑顔で話してくれました。

ソフトヒ二人三脚
鈴木由香捕手
(本郷在住)

「優勝した喜びと、もうこのチームでプレーできないという寂しさが半々です」と話す2人。今後は「進学して、海外遠征で世界のレベルを体験したい(鈴木さん)」「実業団チームでプレーします(中村さん)」そして次なる「ゆめ」は「オリンピックを目指します(鈴木さん)」「また国体に出場して、今のチームメートと再会したい(中村さん)」。残りわずかな高校生活も自らのドレインシングと後輩の指導にあたるので、当分は、ソフトボーラーと二人三脚になりそうです。

「ながらわ・ゆめ国体」秋季大会は、私たちに様々な感動とドラマを残して、10月29日に幕を閉じました。出場した4人の市民の皆さんに、大会の感想や、これから「ゆめ」について、語つてもらいました。



パパっ子のぼく♡
スピード・ハイハイ
で追いかけてます。
(国分北、今野忠志・
美奈子さんの長男)



12月19日で1歳に
なります。おもちは
しょえるかな? (東
柏ヶ谷、未永公一・
亜季さんの長女)

こんの
僚大ちゃん
1歳

末永
すえなが
あやこちゃん
11ヶ月

さくまの
あゆみちゃん
11ヶ月

浅岡
あさおか
猛ちゃん
1歳一ヶ月

きんまる赤ちゃん



お姉ちゃん似でオ
テンババのせいか、「男
の子」って言われる
の。(上今泉、加藤寿
一・弘峰さんの2女)



毎日、猛獣のよう
に「あ~う~」と吠
えている僕です!
(大谷、浅岡誠・江
利子さんの長男)



▲クリスマスリースできたよ

保育園児が、中央農業高校のお姉さんたち
の指導でクリスマスリースづくりに挑戦。「お
うちに飾るんだ!」と大はしゃぎでした。

(11月4日、中新田保育園で)

フォトピックス

人づくりはコミュニケーション



横浜ベイスターズ前監督、大矢明彦さんが講演。「人材育成には、組織が一体となって意思疎通をしていくことが大切」と熱弁をふりました。

(11月7日、「家庭と地域の教育を考えるつどい」で)



屋内消火栓操法大会に19チーム(うち女性5チーム)が参加、日ごろの消火訓練の成果を競いました。

(11月7日、市役所駐車場で)

◀初期消火が肝心



▶空気がおいしい!

山梨県足和田村の東海自然歩道および
5kmを歩いた100人。ゆったりペースで
自然の素晴らしさを堪能しました。

(11月8日、「市民歩け歩け大会」で)

「市民に親しまれる、地域に密着した楽団を目指します」と話すのは、海老名市民吹奏楽団の団長、馬場伸一さん(国守吉在住)。昭和62年から5人でスタートし、市の行事などの演奏や、他の楽団との合同公演などを行い、現在では40人を超える大楽団に成長しています。団員は高校・大学生、社会人と幅広い年齢層で構成されていますが、多くは社会人で、それぞれに職業があるため練習に集まるのは週に一度。土曜日の午後5時から9時まで。限られた時間の中での4時間は非常に貴重で、あつとう間に過ぎてしまいます。

「演奏は、一人でやつても面白くないし、壁にぶつかることもある。そんなとき、仲間の存在が重要なんです。多くのスポーツは勝利が上達の目標になりますが、樂器演奏は分かりにくい。けれど、和音の響きがぴたり合ったときは上達を実感できる場面です。そんなときみんなでやつてよかったと思える瞬間ですね。」

音 し い ゆ か

地域に密着した活動を続ける 海老名市民吹奏楽団



炬火リレー合火式での演奏

昔のプロも初心者も

「シユウ」と空気を貢献する矢が刺さると、静まっていた観客が一齊に「よつやあ!」。しかし射場の選手は、残身の体勢のまま「シユウ」と空気を貢献する矢が刺さると、静まっていた観客が一齊に「よつやあ!」。しかし射場の選手は、残身の体勢のまま

編集後記

微動だしません。秋晴れのなかに「美しい」と思われるスポーツを取り材させていただき、大満足で帰路についたのでした。(康)

長いブランクを経たあの再チャレンジの人もいる。レベルの差なんて大きな問題じゃありません。吹奏楽は1人でやつても楽しくない、みんなでやれるということは楽しいし、上達への早道でもあると思います。ぜひ音楽が好きな人たちの参加を望みます。演奏の場を求めている人や興味のある人は、馬場さんに連絡(☎34-01)を。きっと満足できるはずです。